（様式１・小学校用①）

平成３０年度　学　校　評　価　報　告

草加市立花栗南小学校
（平成３１年２月８日作成）

１　学校教育目標

○考える子
・自分の目標が持てる子　・自ら解決しようとする子　・最後まで粘り強くやり抜く子
○思いやりのある子
・相手の立場を理解する子　・思いやりのある行動のできる子　・自然愛、人間愛に満ちた子
○体をきたえる子
・健康や安全に注意する子　・自ら進んで体をきたえる子

２　重点目標・努力目標

1　一人一人の個に応じた教育を推進し、確かな学力と生きる力を育成する。
2　心潤う生徒指導の充実を図る。
3　人権を大切にしあう教育の推進を図る。
4　体育的活動の充実を図り、体力の向上を推進する。
5　安全で美しく潤いのある教育環境の整備を図る。
6　地域との連携の強い本校の特色を継承し、さらに信頼を深める特色ある学校づくりを推進する。

３　前年度の成果と課題

成果
○学校、地域が一体となった、あいさつ運動を展開することで、児童の自信や意欲、地域への愛着が醸成された。
課題
●学習において「花南スタイル」をさらに深化させ、意欲的に取り組む児童の育成を図る。

４　評価表 ※評価基準〔A：十分達成している　B：おおむね達成している　C：やや不十分である　D：不十分である〕

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅰ　学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○校内の様々な課題に対して、適材の人材を配置し、担当が中心となり解決することができた。 ●教職員一人一人の俯瞰的視野の育成
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○草加っ子の学びを支える授業の５か条に則した授業を着実に行うことができた。 ●これまでの取組を継続し、指導力向上が課題である。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○保健安全の全体計画に則り、全職員で健康安全な学校生活づくりに努めることができた。 ●危機管理マニュアルの見直し及び共通理解が必要である。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○校内個人情報管理規定、校内情報機器等の管理運営規定に従い、情報を適切に管理することができた。 ●施設の老朽化に対する速やかな修繕の対応が必要である。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校公開を多く開催し地域に学校の様子を知らせることができた。 ●学校応援団との打合せ時間を確保し、さらに連携を充実させなければならない。
	⑥幼保小中を 一貫した教育	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○一貫教育のための組織づくりをすることができた。 ●一貫教育の目標を全教職員が確認し、家庭・地域に理解される活動が必要である。

（様式１・小学校用②）

草加市立花栗南小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅱ　教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○学習指導要領に基づき、計画通り、実施・評価ができ、児童のよさや確かな学力の伸張を図ることができた。 ●教育活動の評価を確実に次年度の実践に活かせるよう、方策を明確にしたい。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・わかる授業づくり ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○「児童が主体的に取り組める授業の工夫・改善」「家庭学習の推進」により学力の向上を実現した。 ●さらなる「花南スタイル」研究実践が必要。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	B	○道徳の時間や他の教育活動において、全体計画に基づき全職員で道徳的実践力の育成に努めることができた。 ●道徳の教科化に向けた研修を研修計画に位置づけることが必要。
	④外国語活動	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携	A	○指導計画に基づいて、児童が外国語に慣れ親しむことができた。 ●新学習指導要領の移行処置に向けた計画的な研修が必要である。
	⑤特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動	A	○学校生活をより良いものにするために、児童会や各学級で進んで取り組むことができた。 ●本校「３大じまん」を自ら実践できる児童を育成する。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫	B	○校外での学習や地域の方による指導、福祉、環境など計画的に実施することができた。 ●次年度に向けて、単元の精査とより効率的な指導の工夫改善を行う必要がある。
	⑦生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・基本的生活習慣の定着 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導委員会を活用し、児童理解・問題行動把握を行い、迅速に対応することができた。 ●積極的生徒指導に向けて、全教職員の確実な共通理解が必要である。
	⑧キャリア教育	・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化	B	○教育活動全般を通して、一人一人の夢や個性を育てる活動を行うことができた。 ●小中一貫を通し、中学校との連携を深め、計画的に行う必要がある。
	⑨特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	B	○支援を要する児童に対し個別の指導計画を基にした教育活動が実施できた。 ●通常学級において、支援を必要とする児童への理解を全職員参加の研修等を実施する必要がある。

	⑩学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○学校司書と各担任の適切な連携により調べる活動や読書活動が活性化し、図書貸出数が児童一人あたり年間５０冊を超えた。 ●図書室の環境を整備しさらなる読書活動の推進。
	⑪情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ＩＣＴ機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○コンピュータ、プロジェクター等を学年ごとにセットし、デジタル教科書、デジタル教材を有効活用している。 ●多くの教科で活用できるよう研究を深める必要がある。
	⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○人権作文・標語等の取組により、児童に人権について理解を深めさせることができた。 ●人権についての個々の教員の研修が学校全体に広まっていくよう、計画的に校内研修を行っていく必要がある。

（様式１・小学校用③）

草加市立花栗南小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	知育 （考える子）	指導法の工夫改善 家庭との連携 朝の学習タイム	A	○本年度からの研究教科について全職員共通理解の元で研究できた。 ●花南スタイルの継承及び､ICTを活用した指導法について、さらに研究を深める必要がある。
	徳育 （思いやりのある子）	あいさつ運動	A	○本校の重点である「あいさつじまん南っ子」の具現化を目指し、全教育活動において組織を挙げて取り組んだ。 ●校外においてもあいさつができる児童の育成の取り組みを広げたい。
	体育 （体を鍛える子）	体力向上	A	○体力テストの結果が県平均を大きく上回ることができた。 ●休み時間等、主体的に体を動かす児童を育成するため方策を立案実施する必要がある。

５　総合評価（学校関係者評価を含む）

・学校、地域が一体となった、あいさつ運動を継続することで、児童の自信や意欲、地域への愛着が醸成されてきている。
・学校内外の行事をチーム花南の全職員体制で行うことで、児童の意欲や取り組む意識が向上して成果を挙げることができた。児童の自信にも繋がっている。
・「あいさつ」、「読書」、「そうじ」の３大じまんを児童・教職員全員で理解し実践することにより、児童の向上意識を醸成することができた。
・職員が共通理解のもと、体力向上に取り組んできた結果、引き続き、児童の体力の向上が見られ、校外大会にも意欲的に参加する児童を育成することができた。

6　次年度の改善策

・研究を深めてきた花南スタイルの共通理解及び、さらなる深化を図り、「学び合い」により、意欲的に取り組む児童の育成を図る。
・小中一貫教育について、意義等を校区の教職員で確かめる。そして課題に対して様々な取組を実行し、小中一貫の目的を達成させる。
・教育相談活動を組織的に行い、問題傾向のある児童、支援を要する児童を早めに全職員でサポートしていく体制の強化を図る。
・学校行事を精選し、真に児童に必要な指導について共通理解を図り、効果的な教育活動を行っていく必要がある。